第17回 名古屋市アジア競技大会推進本部会議　次第

日　時：令和２年４月13日（月）幹部会終了後
場　所：本庁舎５階　正庁

○　開会

○　議題

推進本部体制の見直しについて　【資料１】

○　報告事項

１　第20回アジア競技大会に係る主な取り組みについて　【資料２】

２　アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の進め方について　【資料３】

３　大会エンブレムの決定について　【資料４】

【資料１】

推進本部体制の見直しについて

１　趣　旨

令和２年度のスポーツ市民局の新設等に伴い、局長級調整会議の構成について見直しを行うもの

〈参考：スポーツ市民局について〉
スポーツに親しみ、スポーツを支える機会を通じて、市民の健康増進や地域活動の活性化等を推進するため、教育委員会事務局からスポーツ振興部門を、市民経済局から地域振興等の市民部門を移管し、スポーツ行政と地域振興等の関連行政を一元的に所管するスポーツ市民局を設置する。

２　主な見直し内容（局長級調整会議）

区分	事項	見直し
スポーツ市民局の新設	障害者スポーツの振興が健康福祉局から移管	総括調整会議（アジア・アジアパラ）の座長・副座長を整理
	スポーツによる都市ブランドの向上が観光文化交流局から移管	魅力発信調整会議についてスポーツ市民局を追加し、座長・副座長を整理
	スポーツ振興やスポーツ施設の管理・運営が教育委員会から移管	競技会場とまちづくり調整会議について教育委員会をスポーツ市民局へ変更
その他	競技会場への観客輸送に関する検討が必要	競技会場調整会議に交通局を追加
	選手村後利用について総務局から住宅都市局へ事務移管	選手村後利用の推進体制を見直し

３　今後の体制（局長級調整会議）

総括　※ ｱｼﾞｱ/ｱｼﾞｱﾊﾟﾗ	魅力発信	競技会場	まちづくり	レガシー
◎総務 ◎スポ市 ◇健福 財政　観文 住都　教育	◎スポ市 ◇観文 市長　総務 経済　健福	◎スポ市 ◇総務　◇緑土 経済　観文 健福　交通	◎住都 ◇緑土 総務　財政 スポ市　環境 健福　上下水	全局 ◎総務 ◇スポ市　◇観文 ◇健福　◇住都 ◇教育

※１　アジア総括は総務が座長、スポ市が副座長
　２　アジアパラ総括はスポ市が座長、総務及び健福が副座長

【資料２】

第20回アジア競技大会に係る本市の主な取組について

事　項	令和元年度	令和２年度
組織委員会の支援	・組織委員会の設立準備を行うとともに、事務局へ本市職員９名を派遣（事務局26名体制） ・将来の財政負担の平準化を図るため、アジア競技大会基金を設置	・組織委員会事務局へ本市職員２名を新たに派遣（事務局30名体制）
選手村後利用	・メイン選手村として一時使用する名古屋競馬場跡地の将来のまちづくりの方向性を示す「第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想」を県市で策定	・後利用事業者の選定に向けて、募集を開始 ・都市基盤施設（道路、公園、雨水貯留施設等）の基本設計を実施
開催機運の醸成	・大会への理解と機運醸成のため、組織委員会や県と合同でキックオフフォーラムを開催 ・ラグビーワールドカップのファンゾーンや名古屋まつり等、土日開催のイベントを中心にブース出展 ・県内の小学６年生と中学３年生にパンフレットを配布	・競技体験イベント、ブース出展、パンフレット配布等を継続実施 ・機運醸成に向けた取組を検討
競技会場	・瑞穂公園の整備・運営に係る基本的な方針を定める「瑞穂公園マスタープラン（案）」を策定 ・PFI 方式により陸上競技場の改築を含む瑞穂公園の整備と公園全体の維持管理運営を一体として実施するため、事業の概要や民間事業者の選定等に関する基本的な考え方を示した実施方針を策定	・「瑞穂公園マスタープラン」を策定するとともに、瑞穂公園の整備と公園全体の維持管理運営を担う PFI 事業者を選定 ・競技会場となる市有施設について、改修計画を策定するために必要な調査を実施
アスリートの発掘・育成・強化	・県とともに地元トップアスリートの発掘・育成を担う「あいちトップアスリートアカデミー」を開校し、選考会や面談等を経てアカデミー生を決定 （キッズ・ジュニア 116 人、ユース11人） ・アカデミー生に対し、育成プログラム（競技体験プログラムやスポーツ教養プログラム等）を実施	・前年度に引き続き、６月まで育成プログラム（競技体験プログラムやスポーツ教養プログラム等）を実施（2月21日から4月末まで実施見合わせ） ・７月に選考会を行い、第２期の「あいちトップアスリートアカデミー」を開始（７月から翌年の６月までを１サイクルとして継続実施）
そ　の　他	・大会を契機に本市がめざすまちの姿を明らかにした「2026アジア競技大会ＮＡＧＯＹＡビジョン」を策定	・ＮＡＧＯＹＡビジョンの取組を各局で推進

※　新型コロナウィルスの影響等により変更となる可能性がある。

＜参考：組織委員会の取組＞

事　項	令和元年度	令和２年度
運　　営	・(一財)愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会を設立 ・各分野の基礎的な事項と大まかなスケジュールを示した大会開催基本計画をOCAへ提出	・夏頃の公益財団法人への移行を目指し手続を実施
競　　技	・2024年のパリオリンピックで実施される中核28競技について、調整が整った35競技会場を仮決定 ・調整中の会場やパリオリンピックの追加候補競技の会場について、国内競技団体や施設所有者等と協議・調整	＜オリンピック中核28競技＞ ・調整中の競技会場の仮決定に向けて、引き続き、国内競技団体や施設所有者等との調整を実施 ＜オリンピック中核28競技以外＞ ・パリオリンピック追加４競技の決定後、国内競技団体や施設所有者等との調整を踏まえ、競技会場の仮決定に向けて検討
大会施設	・メイン選手村に整備する宿泊施設やサービス施設（ダイニング・診療所等）の基本仕様やゾーニングを検討 ・選手村の分散について、分散候補施設となるホテル等を個別訪問する等、分散候補地の調査を実施	・選手村の施設計画作成に向け、選手村に必要なサービス施設の機能や仕様等の諸元をまとめ、具体的な施設配置の立案や概算工事費を検討 ・選手村の分散について、競技会場の仮決定を踏まえ、引き続き調査を進めるとともに、早期の宿泊施設の確保に向けて調整
宿　　泊	・大会関係者の宿泊施設確保に向け、ホテルへの個別訪問や業界団体の会合等で協力を依頼	・OCAとの調整に向けて、先催大会の宿泊実績を踏まえ、旅行会社等へのヒアリングを行い、大会関係者別の宿泊施設配置計画を検討
輸　　送	・仮決定した35競技会場のうち、10会場に係る選手団輸送や観客輸送について、輸送手段や輸送ルートの検討、必要な輸送力の推計、渋滞箇所等の課題の調査と対応策を検討	・引き続き、35競技会場のうち25会場について課題の調査と対応策を検討
宣伝活動	・大会スローガンを「IMAGINE　ONE　ASIA　ここで、ひとつに。」に決定 ・大会エンブレムについて一般公募を実施（520組884作品の応募）し、選定委員会の審査や意見募集を経て決定 ・2022年に開催される杭州アジア競技大会の組織委員会との共同PRに向けて、共同PR動画の制作に着手	・大会スローガンやエンブレムを活用したポスターやチラシ等を作成し、効果的なPRを実施 ・杭州アジア競技大会組織委員会との共同PR動画を制作し、双方がイベント等で活用する等、共同PRを推進
そ　の　他	・マーケティング活動に必要となる専任代理店の選定に向け、OCAとの調整やJOC、先催大会等の組織委員会から情報収集 ・知的財産保護のため、大会名称、大会スローガン及びエンブレムについて、使用に関するマニュアルを策定	・スポンサー獲得に向け、専任代理店を選定する等、マーケティング活動を実施 ・OCA総会への出席やOCAの視察対応等を実施

※　新型コロナウィルスの影響等により変更となる可能性がある。

【資料３】

アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の進め方について

１　検討状況（予定を含む。）

取組／課題	令和元年度	令和２年度
想定競技及び競技会場の決定	・庁内及び競技団体との調整 ・想定競技会場におけるバリアフリー状況の把握	・想定競技及び競技会場(案)の提示
障害特性上からの配慮・調整	・大会に係るバリアフリー関連法令等の比較・整理 ・障害者団体及び競技団体等からのヒアリング	・大会に係るバリアフリー対応の検討 ・障害者団体及び競技団体等からのヒアリング ・輸送・宿泊等、大会運営全般に係る検討
開催都市契約の内容検討	・弁護士を交えた内容精査 ・APC及びJPCとの協議	・弁護士を交えた内容精査 ・APC及びJPCとの協議
概算経費の把握	・想定競技会場の仮設整備等に係る概算工事費の算定 ・過去大会や他大会等を基にした運営経費の試算	・大会運営全般に係る検討等を踏まえた経費の精査
県市負担割合の決定	・県との協議開始	・県との協議

これらの取り組み状況を踏まえ、開催について判断

２　今後のスケジュール（案）

・4月27日（月）　競技会場調整会議

３　大会を契機とした諸施策の推進

・障害者スポーツの振興
・障害者への理解の促進
・全ての人が利用しやすい都市環境整備の促進

【資料4】

大会エンブレムの決定について

第２０回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）のエンブレムは、以下のとおりとする。

【趣旨】

スポーツのもつ躍動感を自由な曲線で描いています。さん然と輝く太陽（ＯＣＡシンボル）と、紫・金・緑で作り出される中央の直線は、人々が「ひとつ」に集い、未来へ向かう様を表しています。

愛知・名古屋らしく、愛知県の花「カキツバタ」の紫と、「名古屋城」の「しゃちほこ」の金、そして、愛知万博、ＣＯＰ１０、ＥＳＤユネスコ世界会議を通じて培われた環境への想いを表す緑で彩っています。

また、紫と中央の直線は「アジア（Ａｓｉａ）」と「愛知（Ａｉｃｈｉ）」のＡを、紫と金は「名古屋（Ｎａｇｏｙａ）」のＮをかたどっています。

【エンブレム制作者】

宮下（みやした）　浩（ひろし）

〔プロフィール〕

１９６１年、愛知県岡崎市出身

愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了

愛知産業大学造形学部デザイン学科准教授、グラフィックデザイナー

〔受賞歴〕

世界ポスタートリエンナーレトヤマ’９７／’０９入選

おいしい東北パッケージデザイン展２０１７審査委員賞（福島治賞）　等

【エンブレム募集結果】

（１）応募条件

①募集期間

２０１９年１０月１９日（土）正午から１１月２０日（水）正午まで

②応募資格等

・年齢・経験等：不問

・国　　籍　　等：日本国籍または日本にお住まいの方

・グループ参加：可

・応　募　点　数：１人（１グループ）３点まで

③応募方法

・エンブレム募集サイト内専用フォームから提出（電子データ）

④採用作品賞金

５０万円（税込み）

（２）募集結果

５２０組（全国４０都道府県から）、８８４点の応募

【エンブレム選定委員会】

第２０回アジア競技大会エンブレム選定委員会（下表の５名により構成）により、延べ４回の会議を開催し、協議及び投票による審査を実施した。

（敬称略／委員は五十音順）

役職名	氏　名	所属等
委員長	廣村　正彰	廣村デザイン事務所代表／グラフィックデザイナー
委　員	北川　啓介	名古屋工業大学大学院工学研究科教授／建築学者
委　員	田中　里沙	事業構想大学院大学学長／宣伝会議取締役副社長
委　員	森本　千絵	goen° 主宰／コミュニケーションディレクター／アートディレクター
委　員	矢野きよ実	パーソナリティー／書道家